

對雪憶往歲錢塘西湖訪林逋

宋 梅堯臣ばいぎようしん

雪に對して、往歲、錢塘西湖に林逋を訪ねしを憶う

昔乘野艇向湖上 昔野艇やていに乗りて湖上に向かう

拍岸去尋高士初 岸を拍うち去ゆきて高士たうしを尋たずぬるの初め

折竹壓籬曾礙過 折竹せつちく籬まがきを圧し曾かつて過かぐるを礙さまたぐ

却穿松下到茅廬 却かへつて松下しょうを穿うがち茅廬まういに到る

【語釈】

○往歲：過ぎ去った年。先年。むかし。

○野艇：野水に泛ぶ小舟。野舟。○拍：拍、擊の意。

○去尋：尋にだけに意味がある。

○高士：すぐれた能力をもちながら仕えない人。

○曾：ますます。重ねて。

○礙がい：碍がいに同じ。さまたげる。

【通釈】

その昔、野の小舟に乗って湖上に向った。船を岸に着けて高士の林逋を初めて尋ねた。折れた竹が意外にも垣根をおおいつ通りにくかったたので、そこで松の下をくぐって林逋の住む茅葺の廬いおりに着いたのだった。

佩文齋詠物詩選七絶抄・注釈

神漢連叢書「だれでもわかる七言絶句ここから一步(上)」 93 頁